

【市議会（2月20日建設常任委員会）への戦略（素案）報告時の質疑と答弁】

◆建設常任委員会（報告）		
会派	質疑	答弁
民主クラブ	・産業経済界と生物多様性との関連性や具体的な施策について	<p>・産業経済活動は、多くの場面・段階で生物多様性を基盤とする生態系サービスを利用しています。</p> <p>・SDGsという持続可能な開発目標では、生物多様性の保全等に関する国際的な新しい動きとして、経済と社会が持続可能であるためには自然資本がその必要条件であることが示されており、これまでの国際目標と異なる特徴となっています。</p> <p>・しかし、事業活動において、生物多様性に対する適切な配慮がなされるように事業展開をする必要性の理解と浸透が不足していると考えられます。</p> <p>・まずは、商工会議所と連携した研修会などの開催やCSR活動の拡大支援などを実施していきたいと考えています。</p>
	・まずは、生物多様性の普及啓発に取り組むとのことだが、平成22年に名古屋市で開催されたCOP10において、作成されたロゴマークなどを活用して、よりわかりやすく広報、周知したらいかがかと考えるが、その方法について	<p>・生物多様性に関する根本的な課題として、本戦略で第0の影響として加えた生物多様性に対する認識不足や周知活動が不十分なことが挙げられます。</p> <p>・そこで、次年度以降、シンポジウムの開催、パンフレットの配布、アンケートの実施、ロゴマークの活用などとともに、本戦略の趣旨や市民活動団体・企業など多様な主体の活動情報を発信し、市民に対して生物多様性への理解と浸透を図りたいと考えています。</p> <p>・また、市民が気軽にできる取組みの事例集の整備も実施していく予定です。</p>
	・実行プランとはどのようなものか	<p>・実行プランは、本戦略に位置づけた13施策に関する取組みの具体化を図るために定めるものです。</p> <p>・平成30年度中の策定を予定しています。</p> <p>・定める内容は、「取組み事業名」と「その概要」、「所管する課」や「主体」、「実施内容」、「期待さ</p>

		れる事業成果」、「年次目標」など。
無所属クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点为重点プログラムに位置づけているが、具体的にどういったものか、施設のイメージがあるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点プログラムに位置づけた生物多様性センターですが、新たな施設を整備するイメージではなく、機能の構築を考えています。 ・今までバラバラに実施している生物多様性に関する施策や事柄などを集約させ、有機的につなぐ仕組みを構築したいと考えています。 ・この機能を構築することにより13施策の各取り組みを密接につなぐ、ターポ的な役割をするセンター機能の構築を考えています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・産業経済活動の中で生物多様性に取組むの中で、観光業における取り組みの拡大というものがある。その内容として、江ノ島以外の藤沢市域においても、農作物や様々な自然資源を利用した新たな観光のあり方を考えていく、といった例が書かれている。藤沢以外の自然資源や農作物というと、中心的には北部方面になるのかなと思うわけだが、これは、従前からの観光の課題でもある。どのように進めていくのか、みどりとしてのお考えを聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この件については、市民と合意形成を図るために行ったグループワークでも、同様な意見が出ています。 ・「江ノ島は結構有名だが南北のつながりがあまりない」といったご意見をいただいております、北部と南部をつなぐような取り組みを考えていこうと思っています。 ・具体的にどのようなプログラムが考えられるかについては、農業水産課など関係者と連携しながら、次年度の実行プランの中で考えていきたいと考えています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を中心とした生物多様性を学ぶ場の充実で「えびね・やまゆり園」など、三大谷戸、市民の森など様々なツールがあるが、これまでそれらの場所でどのような子供たちの関わりがなされてきたのか教えていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・「えびね・やまゆり園」(遠藤笹窪緑地予定地内)や三大谷戸と、子供たちとの関わりですが、「えびね・やまゆり園」と子供たちとの関わりは把握してないですが、例えば、石川丸山谷戸では、石川丸山ホテル保存会が民地などを借りて耕作していますが、県の補助金などを頂き、過去には子供たちを中心に農業体験をしたという事例があります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、三大谷戸などの自然があるが、それに触れる機会というのが、例えば教育委員会との連携の中では行われてきてなかったという事だと思う。今後連携をしっかりして、そのような機会を作っていくということなのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性という観点では、教育委員会でも教育文化センターなどを中心に、様々な生きものに対する取組みを実施しているが、みどり保全課との連携というのは今までなかったと思います。 ・今回、(戦略検討にあたって) 庁内検討会議を設けて、連携の強化をはじめたところですので、今後その取組みを継続したいと考えています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・野鳥観察のできる大庭裏門公園があるが、ここには入れないけれども、外から野鳥観察をするような穴があいている。 ・双眼鏡も一つあるが、どうしても背丈が高くて、子供が見ようと思っても見ることができない状況にもあり、双眼鏡自体もずいぶん古い。 ・せっかく身近に触れ合う機会があるにもかかわらず、利用することができない状況について、今後どのように取り組んでいくのか、聞ききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏門公園は、遊水地として整備され、現在野鳥公園として、普段は立ち入りを制限していますが、ビオトープの取組みの一環で、昨年度から観察会・見学会を「ビオトープ管理者の会」という団体が開催しています。 ・管理者の会は、カワセミの営巣地の保護活動をしており、営巣が確認され、見学会ができるようになってきました。 ・そして、営巣地が観察できるような維持管理もようやくここ数年で始めてきたところです。 ・今設置されている双眼鏡については、あまり良くないので、保護活動の中で、維持補修に努めて行きたい。
市民クラブ藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・重点プログラムの戦略推進の連携体制のところで、マルチパートナーシップを市の政策のもと前面に出されている。ここで事業者として企業、商店会等の横にイメージアップ、宣伝という表記があるが、CSRのことを指していると思うが、どのような解釈をすればよいのか？ ・いままでも地元の企業が緑を保全していく、自然を守っている活動があると思うが、どのように認識しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチパートナーシップの事業者における「イメージアップ、宣伝」は、事業者のメリットを書いたものです。 ・例えば、事業者が環境保全や生物多様性の保全に取り組むことによって、消費者や市民からのイメージアップや宣伝効果があるだろうということで記載しています。 ・企業との緑保全については、本市ではCSR活動の一環として、今までも緑保全をやっていたので、そういったことを今後、生物多様性の観点で拡大したいと考えています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者のメリットを表記したということだが、いろんな官民連携にあたって、企業がどういったことに貢献できるのか、例えば、寄付をいただく、また、従業員が参加・参画したいなど、そういうことを行政からどんどんと提案をしていく、世界で自然が守られている国を見ると、当たり前のように行われている。もう少し踏みこんでいただきたいが、いかがお考えか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・C S R活動の提案をしていくことについてですが、(本戦略では、まず) 普及啓発がテーマだと説明しましたが、市内企業の中には、生物多様性保全の取組みをしたいが情報がなく、どう取り組んだらいいのかわからない、といった声もあるかと思えます。 ・例えば、今回、環境省から、生物多様性の産業界への参画ガイドラインの第2版が示されていますので、そういったものも提示しながら、普及啓発の中でC S R活動の提案についても積極的に発信してまいりたいと考えています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチパートナーシップの中で気になるのが、第一次産業の従事者にしっかりご意見を聞いていくということ。第一次産業の農業・漁業に従事し、一番自然の中で日々仕事をされ、一番自然をご存知だと思う。農業等従事者等の考えが、地元の団体やN P Oと一致しているかという結構考え方が違う場合、理想と現実みたいなどころがある中で、従事者との連携は、マルチパートナーシップをとる上では非常に重要なことだと思う。 ・連携体制の図からは、従事者との連携が読み取れないが、お考えを聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従事者との連携体制ということですが、この戦略検討にたつては、真っ先に農業従事者や商工関係、教育関係者とヒアリングをして、様々なご意見を聞かせていただきました。 ・検討過程において、合意形成をかなりしてきたつもりですし、今後も合意形成を図りたいと思っています。 ・このマルチパートナーシップの図については、各主体が連携せず市を介して単体でやっていることを、もう少し市も(連携の)輪の中に入りながら、主体間の連携を強めるというようなことを図で示したものです。 ・当然、事業者や事業者の方も入っていると考えていただければと思います。
市民派クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、生物多様性を保全か無機質な社会をつくるのか?といった議論があるべきだが、生物多様性戦略の中で、例えば、新庁舎建設時に生物多様性に繋がる取組みがなされたとか、道路の建設の際における生物多様性保全の取組みがなされたのかなど、そのような 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々個別の施策に反映するというよりは、生物多様性の保全と持続可能な利用についての理念や方針を示したものです。 ・本戦略はSDGsや愛知目標といった国際的な要請を受け策定された生物多様性国家戦略などの国内計画を基本に策定しています。 ・また、生物多様性基本法において、その策定を、努力義務とし、生物多様性国家戦略を基本に、策

	<p>個々の施策に生物多様性の保全が反映されているのか伺いたい。</p> <p>・すみやすさ（便利さ）と生物多様性保全とは相容れない部分もある。人間活動を抑制していくことが生物多様性に繋がる一方で生物多様性が全てではないといった考え方もある。自然のあり方をもっと深く議論する必要があると思う。環境倫理の専門家などを含めて検討したのか？</p>	<p>定するものとしています。また、環境省が作成した「地域戦略の手引き」なども参考に策定しています。これらにおいて、生物多様性から得られる恩恵は、将来の世代に継承されるべきものとして「持続可能な利用」の推進という考え方が示されています。本戦略は生物多様性の保全と持続可能な利用に関する計画であり、持続可能な利用を進めていくには、両極端に走るのではなく、保全と利用を両立させながら進めていく方針で戦略を策定しています。</p>
	<p>(意見)</p> <p>・生物多様性は未知な部分がある。自然を人がコントロールできない。自然を大事にしないと持続可能な社会にならないということは私も認識する。今まで、市の様々な施策に、自然を大事にし持続可能にするという観点で進めている事例はないと感じる。他の事業を見ていて生物多様性に配慮したからこのようになりましたといったことが見受けられない。例えば、公共建築物への木材使用等は県内林業の促進し生物多様性に繋がると思うが、積極的に活かされていないと感じる。市全体で自然を大事にしていくよう取り組んでほしいと思う。</p>	

◆ 予算委員会

会派	質疑	回答
ふじさわ湘風会	<p>・生物多様性戦略に基づき、効果的な施策を推進していく（平成 29 年度事務事業評価シート簡易版に記載）とあるが、効果的な施策の具体について</p> <p>・例えば、公園内に民間カフェやレストランなどを併設した生物多様性センターを整備し普及啓発に活用したり、その収益を公園等の維持管理に活用したらいかがか？</p>	<p>・具体的には、藤沢市生物多様性地域戦略で定める重点プログラム(生物多様性センター機能の構築による連携・つながりの創出) を実行していくことと考えています。</p> <p>・本戦略（素案）では 13 の施策と取組み内容を定めたが、この各取組み全てと密接に関係し、各取組みの成果を最小の経費・労力で最大限発揮させるものとして、重点プログラムを定めました。</p> <p>・これを実行することで全ての施策が効果的に推進できるものと考えています。</p> <p>・拠点機能の構築については、市民ヒアリングやグループワークなど、戦略の検討を進めていくなかで、最も効率的な施策として、重点プログラムとして明確に位置づけたものです。</p> <p>・また、生物多様性を広く普及啓発していくため</p>

<p>ふじさわ湘風会</p>	<p>重点プログラムの具体化について聞きたい。</p>	<p>には、民間カフェ等の活用なども有効であると認識しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そこで、平成 30 年度にセンター機能の構築について、他自治体の事例等を十分に研究した上で、平成 31 年度以降に専門家等による具体化の検討をしていきたいと考えています。
<p>市民クラブ藤沢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略策定後、真っ先に何に取り組むのか ・来年度開催する戦略に関するシンポジウムの参加者はどのような層をターゲットに想定しているのか ・ビオトープ整備における企業の参加について、例えば稲荷の森などでの取り組みについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の取組みについては、戦略策定後、キックオフイベントとして、大学などと連携を図りながら、シンポジウムを開催し、生物多様性や本戦略の普及啓発に努めたい。 ・生物多様性の恩恵である「生態系サービス」は、私たちの暮らしと産業経済活動を支えています。そのため、普段の暮らしの中で、生物多様性について、意識や認識したことのない市民や企業等の方に参加していただきたい。 ・引地川と区別緑地保全地区内にある「稲荷の森」は、創出型のビオトープとして、1990 年ごろから、市民・企業・行政が協働で森づくりを実施しています。 ・約 2ha の丸裸だった斜面に苗木を植栽し、樹林地として再生させましたが、約 20 年後には、手入れ不足となったため、行政・市民団体・NPO 法人・企業等が連携し、草刈、樹木の間引き、剪定した枝を使った柵作り、外来生物の除去等きめ細かな管理を行う一方、企業の CSR 活動の一環として研修やデモンストレーションの場として活用されています。
<p>無所属クラブ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略の普及啓発を兼ねたイベントとして かいぼりしたらどうか？（新林公園の）川名大池での予定の有無について 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来生物の駆除を目的とし、池の水を干すかいぼりについては、東京都の井ノ頭公園などで、ボランティア団体や都民協働で行われていることは認識しています。 ・池の水を抜くことで下流域の生態系を乱す恐れがあり研究の必要があることから、現在、予定はありません。 ・市としては、外来生物の根絶は困難であり、費用対効果を考える必要もあることから、本戦略

		<p>(素案) に、外来生物の防除と管理方針の作成を位置づけましたので、今後、その方針について検討していきたいと考えています。</p>
--	--	---